

平成 31 年 2 月 1 日
仙台管区気象台

東北地方の 1 月は記録的な降水量の少なさとなりました

～ 統計開始以降、1 月の東北太平洋側と東北北部の月降水量が
少ない方からの 1 位を記録～

低気圧や湿った空気の影響を受けにくかったことや大陸からの寒気の流れ込みが弱かったため、1 月の月降水量が東北太平洋側と東北北部で統計開始以降 1 月としては少ない方からの 1 位を記録しました。

低気圧や湿った空気の影響を受けにくかったことや大陸からの寒気の流れ込みが弱かったため、月降水量は東北太平洋側で平年比 18%、東北北部で平年比 40% となり、ともに 1946 年の統計開始以降 1 月として少ない方からの 1 位を記録しました(これまでの 1 位は東北太平洋側が 1977 年の 24%、東北北部は 1983 年の 44%)。

また、八戸、宮古、大船渡、福島、小名浜の月降水量も 1 月として統計開始以降の少ない方からの 1 位を記録しました。なお、八戸と小名浜の月降水量は統計開始以降、通年として少ない方からの 1 位タイを記録しました(これまでの 1 位は八戸が 1988 年 12 月の 3.5mm、小名浜は 1995 年 12 月の 0.0mm)。

詳しくは、下記 URL より、「2019 年 1 月の東北地方の天候」をご覧ください。

仙台管区気象台ホームページ 「2019 年 1 月の東北地方の天候」

https://www.jma-net.go.jp/sendai/kouhou/houdou/19/20190201_01TukiGaikyou.pdf

問合せ先：仙台管区気象台気象防災部 地球環境・海洋課

担当：正木・近藤 電話：022-297-8177 FAX：022-291-8110

2019年1月の東北地方の天候

○東北太平洋側と東北北部の月降水量はかなり少なく、統計開始以降少ない方からの1位を記録した。

概況

この期間、冬型の気圧配置となる日が多かったため、東北日本海側では曇りや雪の日が多く、東北太平洋側では晴れの日が多かった。低気圧や湿った空気の影響を受けにくかったことや大陸からの寒気の流れ込みが弱かったため、東北地方の月降水量と月降雪量はかなり少なく、月降水量は東北太平洋側で平年比18%、東北北部で平年比40%となり、ともに1946年の統計開始以降1月として少ない方からの1位を記録した(これまでの1位は東北太平洋側が1977年の24%、東北北部は1983年の44%)。八戸と小名浜の月降水量は統計開始以降、通年として少ない方からの1位タイを記録した(これまでの1位は八戸が1988年12月の3.5mm、小名浜は1995年12月の0.0mm)。また、宮古、大船渡、福島は月降水量も1月として統計開始以降の少ない方からの1位を記録した。

5日は北日本を低気圧が通過し、福島県を除く各県で大雪となった所があった。8日から9日にかけては冬型の気圧配置が強まり、秋田県、山形県、福島県で大雪となった所があった。16日から18日にかけてと21日から22日にかけては気圧の谷や冬型の気圧配置の影響により各県で大雪となった所があった。24日は低気圧の影響で秋田県を除く各県の山沿いで大雪となった所があった。28日から29日にかけては低気圧や冬型の気圧配置の影響により各県の山沿いで大雪となった所があった。

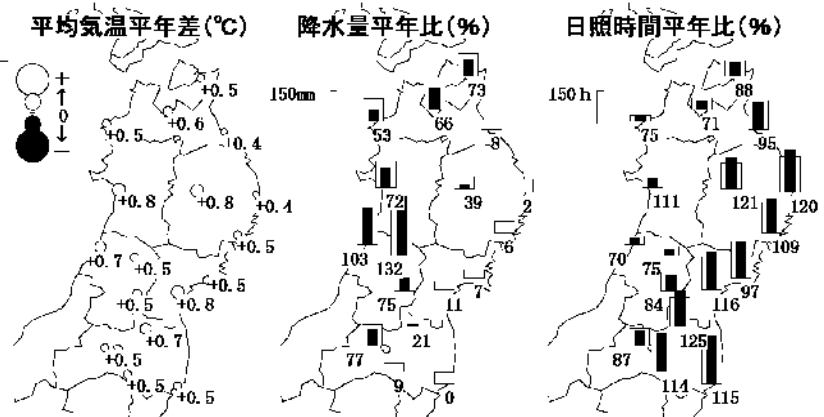
月平均気温は東北北部で平年並、東北南部で高い。月降水量は東北日本海側で少なく、東北太平洋側でかなり少ない。月間日照時間は東北日本海側で少なく、東北太平洋側で多い。月降雪量は東北北部でかなり少なく、東北南部で少ない。

2019年1月

地域	平均気温 平年差℃	降水量 平年比%	日照時間 平年比%
東北地方	+0.6(0)	44(—)	98(0)
日本海側	+0.6(0)	83(—)	82(—)
太平洋側	+0.6(0)	18(—)	110(+)
東北北部	+0.6(0)	40(—)	99(0)
東北南部	+0.6(+)	48(—)	98(0)

()内は階級
 I : 高(多) II : かなり高(多)
 0 : 平年並
 - : 低(少) — : かなり低(少)

図中白四角は平年値、黒四角は実況値



平均気温の平年差、降水量・日照時間の平年比の分布

注意事項

気候統計値は、東北地方にある17地点の气象台、特別地域気象観測所の観測値より求めています(速報値)。

細分地域を東北日本海側は青森県津軽・秋田県・山形県・福島県会津、東北太平洋側は青森県下北・三八上北・岩手県・宮城県・福島県中通り・浜通り、東北北部は青森県・秋田県・岩手県、東北南部は宮城県・山形県・福島県としています。

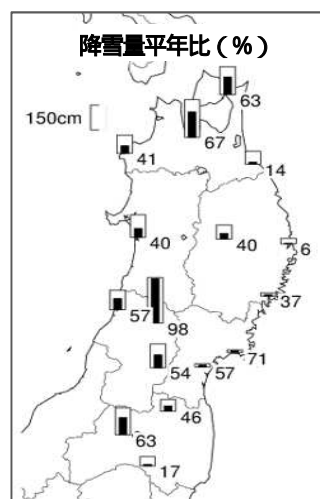
気温の高い・低い、降水量、日照時間、降雪の深さ合計の多い・少ないは、特にことわらない限り平年と比較した階級を表します。平年値の統計期間は1981～2010年です。階級区分は、1981～2010年における30年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる(各階級が10個ずつになる)ように決めています。また、値が1981～2010年の観測値の上位または下位10%に相当する場合には「かなり高い(多い)」「かなり低い(少ない)」と表現します。

2019年1月の月降雪量地域平均平年比と階級

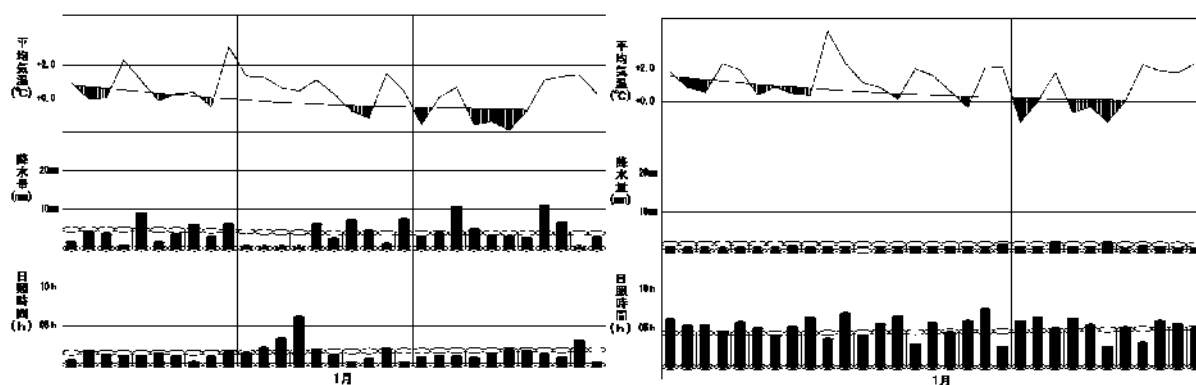
	地域平均平年比	階級
東北地方	48%	かなり少ない
東北日本海側	60%	かなり少ない
東北太平洋側	39%	かなり少ない
東北部	39%	かなり少ない
東南部	58%	少ない

降水量、日照時間、降雪量平年比分布図の凡例について

降水量、日照時間、降雪量平年比分布図の各地点の白四角と黒四角はそれぞれ平年値と実況値です。各分布図の左上のスケール(高さ)は、降水量(mm)、日照時間(h)、降雪量(cm)を表します。各地点の数字は平年比(%)です。

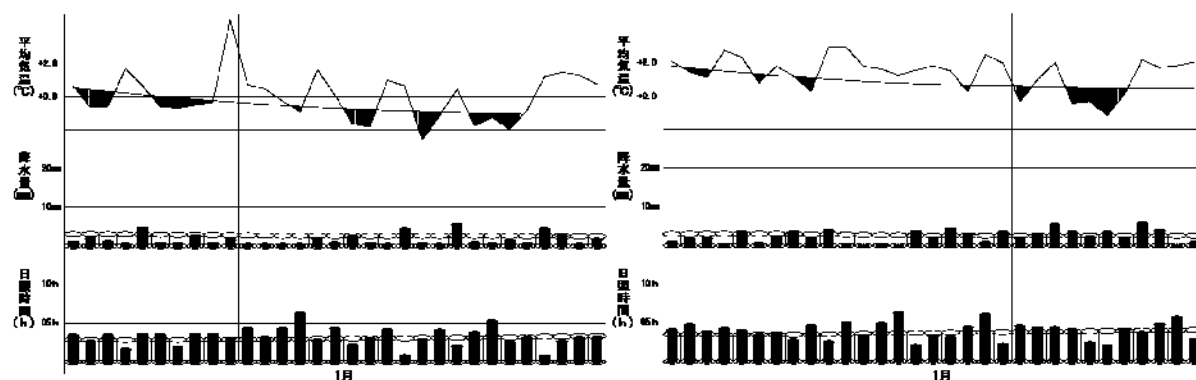


降雪量の平年比の分布



東北日本海側

東北太平洋側



東北部

東南部

平均気温、降水量、日照時間の経過

左上は東北日本海側、右上は東北太平洋側、左下は東北部、右下は東南部の気象官署の観測値と平年値の地域平均。気温は折れ線が観測値、実線が平年値で、陰影は平年値より低いことを示す。降水量と日照時間は黒円柱が観測値、白円柱が平年値。

2019年1月の極値・順位の更新

月降水量少ない方からの順位更新

順位	地点名	降水量 mm	平年比 %	これまでの最小 mm (西暦年)	開始年	平年値 mm
1	大船渡	3.0	6	3.5 (1977)	1964	49.9
	八戸	3.5	8	4.5 (2012)	1937	42.8
	宮古	1.5	2	2.0 (1983)	1884	60.6
	福島	10.5	21	11.4 (1924)	1890	49.4
	小名浜	0.0	0	1.4 (1957)	1911	52.8
2	仙台	4.0 =	11	1.5 (1985)	1927	37.0
3	石巻	2.5	7	1.5 (1985)	1888	34.9

月平均気温高い方から、月平均気温低い方から、月降水量多い方から、月間日照時間多い方から、月日照時間少ない方から、降雪の深さ月合計値多い方から、月最深積雪大きい方からの順位更新の3位以内はありません。

(注)・順位の更新はタイ記録も含んでいる。タイ記録は「=」で表す。

- ・値の横に「=」がある場合には、月別値を求める際に使用したデータ(日別値)に欠測等、統計に用いなかった値が含まれている(資料不足値)。順位は更新順位以上になることは確実であるが、統計値の使用に際しては気候表に記載した統計日数を参照されたい。
- ・平年値とは1981～2010年の30年間の値を平均したものである。

2019年1月の月気候表

地点名	平均気温(平年差) 階級		降水量(平年比)階級		降水日数 1mm	日照時間(平年比) 階級		降雪深さ(平年値)階級		最深積雪(平年値)階級				
	()	()	(mm)	(%)		(h)	(%)	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)			
青森	-0.6	(+0.6)	95.5	(66)	-	20	36.6	(71)	-	151	(225)	-	77	(88)
深浦	0.3	(+0.5)	53.5	(53)	-*	13	20.1	(75)	-	45	(110)	-*	23	(32)
むつ	-0.9	(+0.5)	75.5	(73)	-	16	63.0	(88)	-	106	(168)	-*	35	(46)
八戸	-0.5	(+0.4)	3.5	(8)	-*	2	124.3	(95)		11	(77)	-*	4	(17)
秋田	0.9	(+0.8)	86.0	(72)	-	16	44.4	(111)	+	55	(138)	-*	14	(31)
盛岡	-1.1	(+0.8)	20.5	(39)	-*	7	142.0	(121)	+	34	(85)	-*	16	(29)
大船渡	1.3	(+0.5)	3.0	(6)	-*	2	156.2	(109)	+	7	(19)	-	3	(7)
宮古	0.7	(+0.4)	1.5	(2)	-*	1	193.7	(120)	+	2	(33)	-*	1	(13)
仙台	2.4	(+0.8)	4.0	(11)	-*	2	171.5	(116)	+	12	(21)	-	7	(10)
石巻	1.2	(+0.5)	2.5	(7)	-*	1	161.0	(97)		10	(14)		6	(8)
山形	0.1	(+0.5)	62.5	(75)	-	17	71.3	(84)	-	80	(148)	-*	36	(40)
新庄	-0.6	(+0.5)	274.5	(132)	+	25	28.8	(75)	-	277	(283)		124	(101)
酒田	2.4	(+0.7)	172.5	(103)		24	27.4	(70)	-	70	(122)	-	35	(25)
福島	2.3	(+0.7)	10.5	(21)	-*	2	164.7	(125)	+	34	(74)	-	23	(19)
若松	-0.1	(+0.5)	73.5	(77)		17	68.6	(87)	-	108	(171)	-	29	(49)
白河	0.8	(+0.5)	3.5	(9)	-*	1	172.4	(114)	+	10	(58)	-*	5	(15)
小名浜	4.3	(+0.5)	0.0	(0)	-*	0	219.2	(115)	+					

(注) 1. 平年値は1981～2010年の資料から求めた。

2. 「階級」の記号の意味は以下のとおり。

+ : 高い(多い) : 平年並 - : 低い(少ない)

各階級の区分値は、1981～2010年における30年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる(各階級が10個ずつになる)ように決めた。

また、値が1981～2010年の観測値の上位または下位10%に相当する場合には階級の「+ -」に*を付加した。この場合には

かなり高い(多い) かなり低い(少ない)

と表現できる。

また「降雪の深さ」と「最深積雪」の「階級」は平年値が「1cm」以上の場合のみ表示した。

3. 値の横に「) や]」がある場合には、月別値を求める際に使用したデータ(日別値)に欠測等が含まれていることを示す。)付きの値(準正常値)は通常のものと同様に扱うことができるが、]付きの値(資料不足値)については、統計に用いる観測資料数が不足しているため、値の下に記載した統計日数(統計に用いた、品質が十分な日別値の数)を参考にして使用されたい。

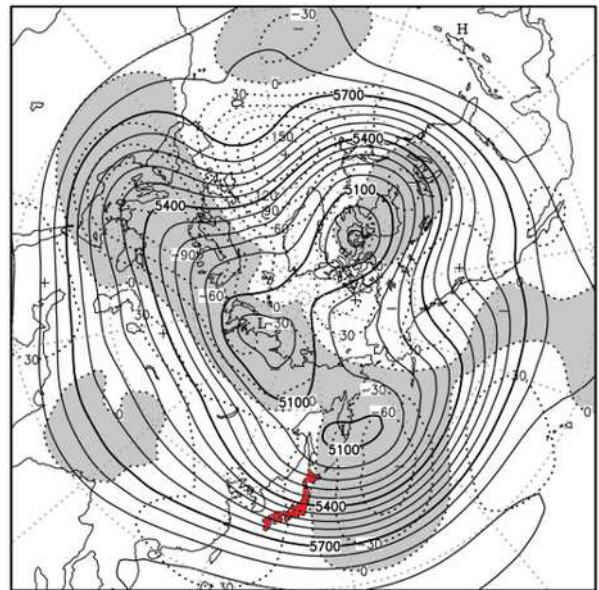
なお、日別値がすべて欠測のため値が求められない場合は「x」とした。

循環場の特徴

500hPa 高度は、大陸で平年より高く、日本の東で平年より低かった。偏西風は大陸で北に蛇行し、大陸は暖かい空気に覆われやすく寒気の蓄積は弱かった。

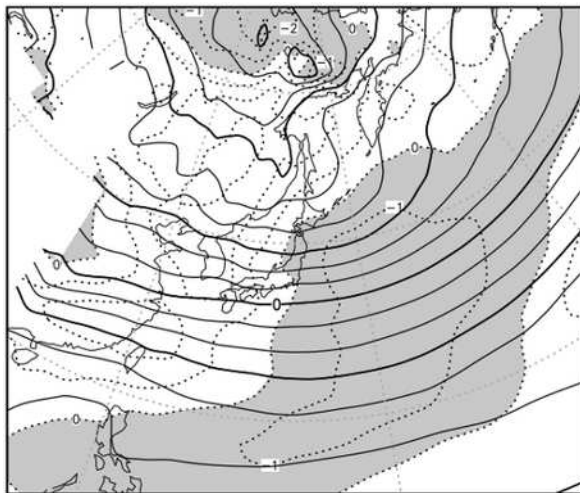
850hPa 気温は、大陸で平年より高く、日本の東で平年より低かった。このため、本州付近は大陸からの寒気の流れ込みが弱かった。

海面気圧は、大陸から東日本付近にかけて気圧が平年より高い一方、アリューシャン付近では平年より低く、北日本付近は冬型の気圧配置となる日が多かった。



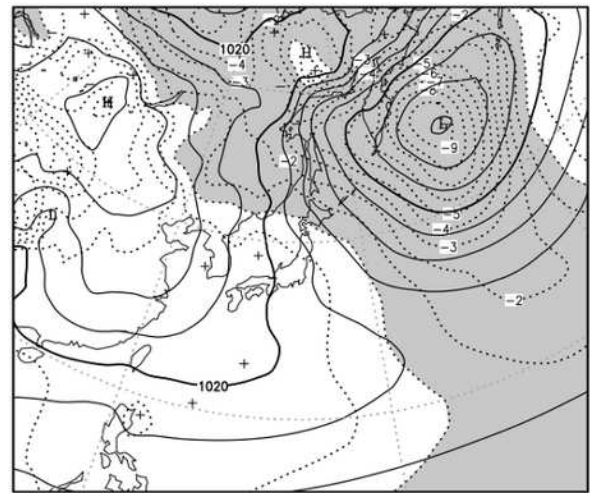
2019年1月の平均500hPa高度

実線は高度(m)、間隔60m。点線は偏差(m)、間隔30m。陰影は負偏差で一般に寒気に対応し、白抜きは正偏差で一般に暖気に対応する。



2019年1月の平均850hPa気温

実線は気温(°C)、間隔3。点線は偏差(°C)、間隔1。陰影は負偏差で寒気に対応し、白抜きは正偏差で暖気に対応する。



2019年1月の平均海面気圧

実線は海面気圧(hPa)、間隔4hPa。点線は偏差(hPa)、間隔1hPa。陰影は負偏差、白抜きは正偏差。